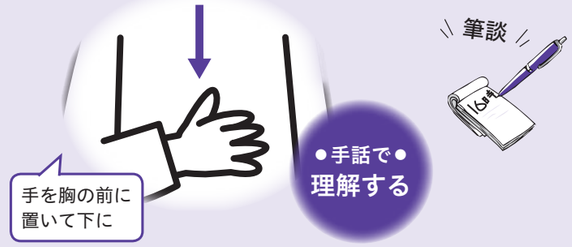
12月3日㈮～9日㈭は「障害者週間」です

聴覚障害者について知ってください

# 伝えることを諦めないで！

障害のある人もない人も、みんな、同じ社会の中で暮らしています。お互いの人格と個性を尊重し、支え合い、地域で安心して暮らすことのできる共生社会の実現が望まれます。「障害者週間」を機会に、障害のある人や障害への関心・理解を深めましょう。

問 障害福祉課（1階）☎561-2363、FAX561-2480

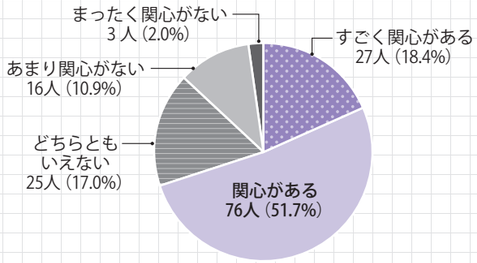



## 知っていますか 聴覚障害者のコミュニケーション

令和2年度に関西大学社会安全学部の近藤誠司研究室と協力し、聴覚障害者を対象に防災やコミュニケーションについてのアンケート調査を実施しました。聴覚障害がある人は普段どのように思いを伝え、どのような思いを持っているのでしょうか。

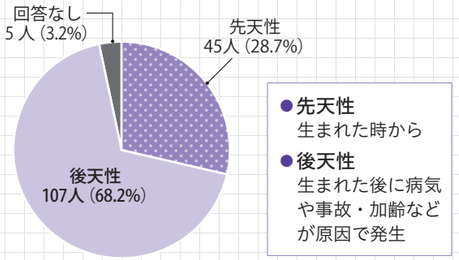
聴覚障害者328人に調査
157人から回答／回収率 47.9%
＜アンケートの回答者の年齢＞
20代以下／9人(5.7%)　30代／6人(3.8%)
40代／13人(8.3%)　50代／17人(10.8%)
60代／14人(8.9%)　70代以上／98人(62.4%)
※60代以上の高齢者の割合が7割を超える
※四捨五入の関係で、値が合わない場合があります

### 防災への関心度について（147人回答）




7割の人が防災に関心あり

### 聴覚障害について（157人回答）



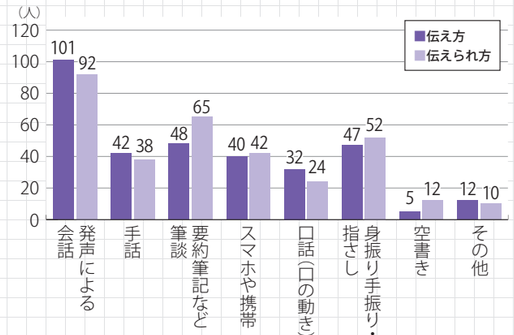

後天性の人が全体の7割近くを占める

### 市民に知ってほしいことやアイデア

- 聴覚障害があることを表すワッペン、マーク、スカーフの存在
- 筆談ボード、掲示・表示の工夫、スマートフォン、ファクスの活用、手話通訳も必要
- 後ろから話かけられても分からない
- 普段から聴覚障害について理解を深めてほしい

「耳マーク」
聞こえが不自由なことを表すと同時に、聞こえない人や聞こえにくい人への配慮を表すマークです。

### 普段の「伝え方」・「伝えられ方」（157人回答）※複数回答あり




発声・筆談が多いが、手話も一定数あります

※2020年度草津市聴覚障害者全数調査「災害時のコミュニケーションのありかたを考えるためのアンケート」から抜粋



災害時にも助け合おう！

# 避難時に知っておきたいこと

聴覚障害者は、聞こえないために必要な情報が伝わらなかったり、自分の言いたいことが伝えにくかったりすることがあります。災害時の避難の際も同じで、避難するための情報や避難所でのアナウンスが聞こえないなど、必要な情報を得られないことがあります。いざというときに助け合えるよう、自分たちにできることを考えましょう。

## ちょこっとぼうさい（ちょこぼう）★災害時に使える手話★

関西大学社会安全学部とコラボした防災福祉動画シリーズ。災害時に役立つ手話を公開。一緒に覚えましょう！

詳しくはこちら

▲右手を左脇から右脇へ。最後に手のひらを前に差し出します。日常生活でも使える簡単な手話です

▲両手人さし指を相手に向け、左右外側から同時に中央へ引き寄せ「一緒に」、走るように腕を振り「逃げる」を表します

▲#002「いっしょに、にげよう！」に「つなみ」「あぶない」の手話を組み合わせた応用編です

## 聴覚障害者にインタビュー

### 災害時の困りごとと健常者に求めること

**Q. 災害時の困りごとは何ですか？**

普段からですが、自分が困っている時に、スムーズに人に声をかけられません。災害時となると、皆さんは自分のことで精いっぱいだと思います。自分からどのようにして助けを求めたらいいのか分かりません。

**Q. 健常者に求めることは何ですか？**

万が一の時は、補聴器も電池が無くなって役に立たないこともあります。必要な情報は見える形であると助かります。私たち聴覚障害者の姿は健常者と変わらないので、障害者の中でも孤立しやすくなります。手話ができなくても、ジェスチャーや筆談でもいいので、諦めずに伝えてください。

## いまこそ、インクルーシブ防災を！

関西大学社会安全学部
准教授
近藤誠司さん

災害とは無縁と思える草津市も、地震や水害などによって大きな被害が出ることが想定されています。自分は大丈夫だと思っているあなたが、助けられる側になることも十分に考えられます。

そこで、“そのとき”が来る前に「インクルーシブ防災」の種をまき、育てたいと思っています。「インクルーシブ」とは、一人も取りこぼさない、互いを包み込み合うという意味です。

聴覚障害者の皆さんは、コロナ禍で苦境に陥（おちい）りました。災害時は、もっと大変なことになるかもしれません。警報を察知できるのか、混雑する避難所で過ごせるのか、心配の種がたくさんあります。そしてこれは、あなた自身のことでもあります。高齢などで聴力が落ちた中途失聴者・難聴者が増えています。今後どのような支援をするべきかを考えることは草津市の豊かさを決めるカギとなるでしょう。命を守る防災の種と、心配の種。あなたは、どちらを選びますか？

## 草津市遠隔手話通訳サービスを実施しています

聴覚や音声・言語機能に障害のある人の社会生活で、意思疎通を支援するため、タブレットやスマートフォンなどのビデオ通話機能を利用して遠隔で手話通訳を行います。

※事前予約が必要です

詳しくはこちら